

**ご存知ですか？ 環境都市練馬区宣言**

「私たちのまちの自然を守りたい」と熱い思いを抱く区民によって作成された宣言です。作成にかかった方々の証言をもとに、改めてこの宣言を振り返ってみました。



宣言は練馬区のリサイクルセンター



沼田さん

なるべく普通の言葉で、言葉からその光景が浮かぶような宣言にしたいと思いました。子どもたちへ響くように、また飾っておくだけにならないように、宣言を広げるための歌やポスターを作ろうと提案しましたが、それは実現しませんでした。宣言から6年たち、状況が変わる中、一度見直してみるのはいかにも知らないと思います。

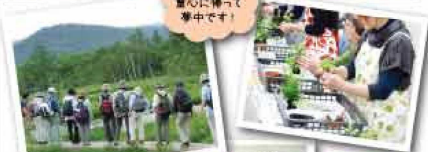
滝田さん

水を大事にしない！ということは強く言いました。水は農業の元です。せっかく宣言したのだから魂を入れなくちゃいけない。そのためのシンボル事業として水を使ったイベントをやたらどうだろうか。暗渠にしまった千川上水を表に出して、水の力を使ってまことに涼しさを呼び込んでみたいと思います。

環境都市練馬区宣言  
私たちは、武蔵野の台地に広がった緑の水脈や農地と調和したみどりと水の豊かなまちを練馬を誇りにしてしまひました。しかし、そのまじまじの風景は、次第に失われつつあります。資源とエネルギーを大量に消費する暮らしや事業活動のあり方は、地球温暖化の源となる温室効果ガスを排出する環境負荷を大きく生み出すようになっています。多量のCO2の排出により、守られてきた環境を大切にしながら、快適で安心して暮らすことのできる環境をつくりつづけるために、引き継いでいくことは、今を生きている私たちの責務です。林、木、草、花、鳥、虫、水、土、空気を大切にする。安全で健康に暮らせる生活環境のまちを、資源やエネルギーを大切にする。環境にやさしい（エコ）な行動の場を広げ、楽しく暮らす。環境都市練馬区を築いていきます。

**楽しく自然に親しむ  
リサイクルセンターの自然学習講座**

散策ツアー・自然観察会・みどりのカーテン作り・早花を使ったオーナメント作りなど、あなたの好奇心をくすぐる楽しい講座をご用意しています。ぜひお気軽に参加してください。



子ども向け自然学習講座もあります！お問合せください

**自然が好き！  
生きものが好き！  
ねりまが好き！**

ねりま環境・リサイクル情報誌

**ゆずりは**

発行：練馬区立リサイクルセンタープロジェクト  
発行月：平成24年(2012年)7月

vol.3



武蔵野の面影を残す自然豊かな都市練馬。緑被率は23区で一番を誇り、区内には白子川、石神井川、千川が流れ、いまなお多くの湧水が湧く「みどりと水と共生する美しいまち」です。この豊かな自然は、まちをこよなく愛している方たちの地道な活動によって守られています。今号では、実際に活動されている自然の守り手たちの思いを中心に、身近にある練馬の自然を紹介します。

**読んでみよう！  
ねりまの自然**

本誌で紹介している練馬の自然に関わりの深い図書を紹介します。一歩踏み込んでもっと詳しく練馬の自然を知りたいという方はぜひ読んでみてください。リサイクルセンターでは環境に関する図書の閲覧・貸出しを行っています。

<p>『川ガキ 観察講座』 川ガキの生態や観察方法を詳しく紹介。</p>	<p>『日本の外来魚ガイド』 外来魚の生態や分布、駆除方法などを紹介。</p>	<p>『人間の原風景を探る』 人類の進化や生活様式の変遷を考察。</p>	<p>『白子川を知っていますか？』 白子川の歴史や生態、水質改善の取り組みを詳しく紹介。</p>
<p>『武蔵野に大学の森をたずねて』 大学の森の自然や歴史を詳しく紹介。</p>	<p>『練馬区公園ガイド』 練馬区内の公園の位置や特徴を詳しく紹介。</p>	<p>『みどりと水の練馬』 練馬の緑と水の豊かさを詳しく紹介。</p>	<p>『石神井公園の歴史と自然』 石神井公園の歴史や自然環境を詳しく紹介。</p>

＜編集後記＞今回、練馬区内の自然を守り、育てていくためのグループを立ち上げました。いろいろなグループがさまざまな活動をしていることに驚きました。皆さん真摯に子どもたち世代に自然を継ぎたい」と目を輝かせながら話します。グループの活動は多方面にわたって広がっていることではございますが、私たちはこの練馬で気持ちよく生活できることを感謝しています。(10)

それぞれに関するお問合せはホームページをご覧ください

＜編集・発行・お問合せ＞練馬区立リサイクルセンタープロジェクト  
●豊玉リサイクルセンター 〒176-0011 練馬区豊玉2丁目22番15号  
電話：5999-3196 FAX：5999-2888 e-mail: tajogama-rc@career-rs.co.jp  
●新日開リサイクルセンター 〒179-0074 練馬区新日開2丁目14番16号  
電話：3926-2501 FAX：3926-2505 e-mail: kasugicho-rc@career-rs.co.jp  
●関町リサイクルセンター 〒177-0051 練馬区関町北1丁目7番14号  
電話：3594-5351 FAX：3594-5389 e-mail: sakimachi-rc@career-rs.co.jp

**みんなキラキラ。  
ねりまの自然を楽しむ仲間たち。**

「自然が好き！」「生きものが大好き！」と語る、練馬で自然保護活動に取り組んでいる方々。そんな皆さんの顔はとても生き生きとして、遠い昔のガキ大将そのもの、顔を聞いているだけでワクワクしてきます。あなたも仲間入りしてみませんか？

<p>千川上水緑道整備のあり方を検討し、「千川上水プロムナード構想」を提案しています まっぴの会 久村さん</p>	<p>石神井川に本来の川のカタクを取り戻す活動をしています 川と水辺を楽しむプロジェクト 佐藤さん</p>	<p>出前授業や子ども樹木博士の認定、自然観察会などを行っています みどり環境ネットワーク！ 村田さん</p>
<p>清水山麓の森のカタク！の保全活動を行っています 大泉みどりの会 小嶋さん</p>	<p>学校や地域で自然体験の場作りや環境学習のサポートをしています 上石神井小学校 しげん探検隊 松田さん</p>	<p>メンバーが協力し合って、みどりの保全活動を行っています 練馬みどりの機構 木谷さんと品田さん</p>
<p>練馬の野草の育成と自然観察を通じて地域住民の親睦を深める活動を行っています 白子川源流・水辺の会 菅原さん</p>	<p>練馬の野草の育成と自然観察を深める活動を行っています 葉っぱの会 堀越さん</p>	<p>練馬の野草の育成と自然観察を深める活動を行っています ねりま環境・リサイクル情報誌 編集長</p>

**つながろう！  
ねりまの仲間たち**

いま練馬ではいろいろな団体が自然環境を守るための活動をしているので、これからは団体同士をつなげるネットワーク作りをしていきたいです。それにより、さらにすそ野の広い活動ができるようになると思います。団体がつながれば、それぞれの得意分野を活かした情報交換ができ、より充実した取り組みができるはずです。「自然について何か始めてみたいけど、自分には何が向いているかわからない」という人も、ネットワークがあれば興味のある活動をしている団体を紹介してもらえますので、始めの一歩を踏み出しやすいと思います。ぜひ、ひとりでも多くの区民の方に参加していただきたいです。環境保全活動はこれからますます大切になってきます。練馬区には区民のネットワーク作りを後押ししてほしいですね。



練馬区環境協議会 編集長

# からだで感じよう！ ねりまの自然

自然保護のキーワードは  
「見る！」「歩く！」「触る！」「遊ぶ！」

## 水辺で遊ぼう！

### アユを白子川上流に呼びたい！

■ 白子川清流・水辺の会 香沢さん

Q 活動の楽しみ、醍醐味は？

A 私は白子川の密着マンという気持ちで活動しています。一人でも白子川のファンが増えてくれると嬉しいです。子どもには小さいときに川で遊んだ記憶が残って、大人になったときに思い出してほしいです。

Q 活動の成果は？

A いろいろとありますよ。

川にごみを捨てるときの足すらも少なくなり、川に入っている地域の人がいっさつしてくれるようになりました。みんなの白子川になってきていると感じます。

Q 理想の川との関わり方は？

A 水中の生きものにとって、棲みよい川にするように普段から意識することです。みなさんにはまず川に立ち寄り、眺めてほしいです。川をより身近に感じてもらえたいと思います。

Q 夢、目標は？

A アユを白子川上流に呼びたいです！ 区内外の流域の活動団体と協力してアユを放流していますが、途中の和光市白子2丁目の東塔橋下に約3mの大きな落差があり遡上できません。そこにアユが昇りやすいように魚道を作れば、10年前で白子川上流でもアユの姿を見ることができるはずです。

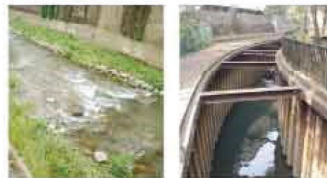


白子川の中を元気になりまわると子どもたち（白子川清流の会）

### 川は遊び場、一緒に遊ぼう！

■ 川と水辺を楽しむプロジェクト 佐藤さん

石神井川は、小平市・小金井公園の源流から西から東へと区画を横断する全長25.2kmの一級河川です。私は新潟県山古志村出身で、子どものころは近所の自然が遊び場でした。川で泳ぎ、水の中の生きものを捕まえるのは日常でした。この原体験があるので、いま、川を中心として親子が一緒になって楽しめる自然体験の場づくりをしています。川遊びは、最初は尻込みしている大人をも陥ります。ジャブジャブ歩き、楽しみながら、子どもも大人も「私たちは自然と共生している」という実感をもちほしです。ただ一つ気をつけなければいけないのは安全確認です。特に子どもは好奇心旺盛ですが警戒心はありません。危険な場所や行為は予め知らせる必要がありますね。



川を本来の姿に戻すために「治水」と「自然との共生」の両方の視点を持つことが必要（石神井川）

### まち歩きは川やみどりの楽しみがいっぱい！

■ まち歩き 久村さん

まっぴすは練馬区西部を中心に地域住民が自ら考え行動するまちづくりグループです。千川通りの拡張に伴う千川上水緑道整備のあり方を検討して「千川上水プロムナード構想」を提呈し、その実現に向けて活動しています。緑道の樹木もケヤキ・サイカチ・エノキなど特徴ある樹木を配置しながら移植を完成しました。

私の活動の拠点は、約30年前に近所の屋敷林が駐車場に変わってしまいショックを受けたことです。みどりは自分たちの手で守らなければいけないと痛感しました。今はまち歩きが楽しいです。何回歩いても楽しい。憩いの違ういろいろな人たちと歩く、違う視点で意見を出し合うことができますし、まちを見る視野が広がります。世代を超えた出会いもあるし、同じ場所でも数年たって訪れると思わぬ変化が見つかります。



散策にぴったりの千川上水（関町南）

## みどりを体感しよう！

### みどりに親しむお手伝いをしています！

■ 緑引環境ネットワーク1 村田さん

自然観察などを通して、みどりを好きになったり、みどりへの思いが深まったり、みどりは生活を豊かにすることを感じ取ってもらえたら嬉しいです。みどりと仲良くすることは、お友達を増やすことと一緒に。人と同じで、草木も名前と顔を覚えるより親しみがわきます。ケヤキは大きく手を広げて万歳をしている木、イチヨウの葉っぱは形がドラムスの足みたい、なんて覚えると親しみませんか？

夏には光が丘公園でセミの羽化の観察もしています。みどりの他にも生きものとも仲良くなれます。ぜひ、身近な生命の神秘を見つけてください。



自然観察会では子どもたちにも大人も、光が丘公園

### カタクリを守る森の番人

■ 大森みどり会 小泉さん

清水山麓の森は、武蔵野の面影を留める樹林を築きつという趣旨で制定された「憩いの森」の第一号です。都内で唯一のカタクリの群落地としても有名です。春にはいっせいに開花する紫紅色の美しいカタクリを見ることが出来ます。また、「東京の名湯水 57選」に指定された湧水がコンコンと湧き、辺りに適度な湿度を提供しています。

きれいな空気と水に恵まれたこの森を保全するために、私たちは活動しています。貴重な森を次の世代に残したいという思いで、春夏秋冬、手を抜くことなくコツコツと活動を続けています。



愛情いっぱいに見守られているカタクリの花

### 元練馬区職員・緑化協力員発足当時の担当

練馬区みどりの機構 本谷さん

緑化協力員は、練馬区から委嘱を受けて、地域で様々なみどりに関する活動をしています。

今から約35年前、練馬区は宅地化が進み、農地をはじめ緑地が減少していく中で、緑被率30%を維持しようという趣旨を込めて23区初となる「みどりを保護し回復する条例」を制定しました。この条例のもと区民の参加によってみどりを守り育てるため、昭和53年に緑化協力員が誕生。初めは、みどりを見る・知ることから生け垣調査などの活動が行われてきました。

現在は、公園の花壇づくりや地域の植樹、小学校と連携した活動など、地域での実践活動へと発展していきました。



公園のシバパクラ整備作業をする協力員のみなさん

## 生きものに触れよう！



### 練馬に本来あった自然を取り戻そう！

■ 生態工学 佐藤さん

光が丘公園バードサンクチュアリ池では在来魚が絶滅しました。家庭で飼いきれなくなったミドリガメ、カミツキガメ、アメリカザリガニ、ウシガエル、ブルーギルなどの外来種が繁殖したためです。ここから私たちの戦いが始まりました。まずは外来生物は全て追っ払おうと、外来種の捕獲作業を始め、その一方で在来生物の復活のために、石神井公園三宝寺池から在来種の魚をわけて貰いました。公園内の池は人工的に作られたものですが、地道な活動が実り、現在ではドジョウ・ナマズ・ギンナ・ヨシノボリなどの在来種を中心とした生態系が育まれています。

次の目標は公園内の樹木の種類を増やすことです。種類が増えればそれを食べる昆虫などの生きものが増え、生態系がより豊かになります。大事な活動だと思つて、ずっと続けていきたいです。



「ミドリガメは40年生きます。飼うときは最後まで責任を持って飼ってあげてくださいね！」



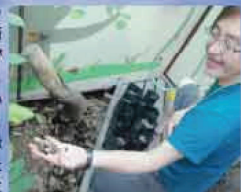
外来生物捕獲用ワフ

### 子どもの視点で自然をみてみよう！

■ 上石神井小学校いぜん探検隊 松田さん

モットーは「リアルに現場を体験する」ことです。そのため、プールを使ったヤゴの救出作戦や、バッタのすみ処を探し作りなどをしています。子どもの箱に五感を使って自然と触れあうと、生きものと環境のつながりを深く理解できるようになります。学校以外の身近な場所でも自然を体験できます。大人はぜひ子どもと一緒に、のんびりまちを歩いてみてください。子どもが発見したことで逆に大人が気付かされるのがたくさんあると思います。

以前、住宅街を流れる石神井川で「川に鳥が飛び込んでいるのを見た」と子どもたちが言ってきました。目撃した場所に行くとカワセミが魚を捕まえていたのです。こんな所に魚が生息していたとは、意外な発見でした。子どもと一緒に歩けば、意外な生き物や知らなかった草木、命の生まれる瞬間に出会えるかも知れません。



蚊取り線香はカワセミを育てるのに役立ちます

### ねりまの川が干集まれー！



注：川が干と川で遊ぶ子どもたちの姿です。都市部では絶滅危惧種？

### 人はみどりがないと生きられない！

生活の中からみどりが人体30%以下になると、人間は精神的に不安定になります。なぜなら、みどりは人類生存に必要な要素としてDNAに書き込まれているからです。昔、人間は安全のために広々とした草原に住んでいました。そこなら猛獣が現れても逃げられる可能性があったからです。

初めて尾瀬を訪れた人でも「懐かしい感じがする」「昔見た風景みたい」と感嘆する人が多いといいます。みどり豊かな原野の風景は人にとって「安全な原風景」だからです。ところが都市化が進むにつれて、みどりはどんどん失われています。だからこそ、練馬は農地を農地として残し、原風景を昔のように維持し、憩いの森を大切に保存していかなければいけません。生きるために必要なことを学ぶ場所、昔の暮らしのあり方を再認識する場所、そして人間の原点として、みどりは必要不可欠なのです。



(写真：尾瀬の風景)

### 安岡先生の



「子どもは自然のなかで遊ぶべし！」「子どもの自然体験が希薄になってきている。授業で学んだだけで自然を理解した気になってしまっている。生きものに触ったことがないのが普通になってしまっている。」取材の中でそんな話をよく聞きました。昔と比べると確かに身の回りの自然は少なくなってしまいましたが、まだまだ身近に面白い自然は残っています。もっと自然のなかで遊ばせよう。  
「大人も一緒に自然体験を！」最近、自然体験をしましたか？自然体験が必

要なのは大人も同じです。自然体験から自然を大切にすることはあります。子どもと一緒に自然に触れましょ。きっと楽しいはずですよ！自然をせよ！自然は楽しい。でも同時に怖いものでもあります。「危険」と書かれている場所には絶対に入らないこと。自然ガイドがいる場所ではガイドの方の説明をしっかりと聞いて安全に遊ばせよう。  
「まずは練馬から始めるべし！」わざわざ遠出しなくても自然を楽しむことはできます。練馬の自然を再発見しましょう。